

町教委にたき火台寄贈

ふるさと
企画舎 学校キャンプ用に

紀北町のNPO法人 事のキャンプで使う飯
ふるさと企画舎(田上 とう炊飯用たき火台8
至理事長)は13日、 台とドラム缶を活用し
町教育委員会に学校行 たキャンプファイア用



ふるさと企画舎が町教育委員会に寄贈のステン
レス製たき火台 (13日、紀北町相賀小学校で)

たき火台1台を寄贈し
た。約20万円相当。

同NPOは町営キャ
ンプイン海山の指定管
理者。銚子川の河原で
は毎年、紀北地区の小
学校8校ほどが野外活
動でキャンプを行って
いる。河原で火をたい
たり、石でかまどを作
り飯を炊く場合
が多く、熱い石でやけ
どをしたり、焼けた石
が割れると危険なた
め、川の環境保全の意
味も込めて、たき火台
の寄贈を決めた。

炊飯用たき火台はス
テンレス製で脚付きの
ため河原の石に直接炎
が当たらない。キャン
プファイア用たき火台

は、ドラム缶の底から
約10センチ部分を輪切り
にし、脚になる鉄の棒
をドラム缶の底に溶接
して河原に接触しない
構造。

町教育委員会は希望
する学校に貸し出し、
13日には早速、相賀小
学校(小西正弘校長、
194人)の6年生33
人が田上理事長の指導
で、たき火台を使って
コメを炊き、水谷愛琉
君は「火をおこしやす
くて便利」と喜んでい
た。児童らは21、22の
両日、銚子川でキャン
プを行う。

田上理事長は「災害
時に電気が使えなくな
ったとき、飯ごうでこ

飯を炊く場合もあるか
もしれないので真剣に
火のおこし方を覚え
て」と呼び掛け、小西
校長は「河川の環境に
配慮しなければと思っ
ていたので、たき火台
の寄贈は本当にありが
たい」と話していた。
同NPOはキャンプ
イン海山の利用客から
の寄付金を積み立てて
いる銚子川環境保全基
金から購入した。